

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:大橋健司、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

<2024 新年のはじめにー明けましておめでとうございます！>

「日本の明日…ふたたび尊敬される国へ」

昨年はまさに激動の年で、様々なあらたな危機に見舞われました。この年、いやこの何年間、日本は世界の中でどのような役割を果たし、どのように見られてきたのでしょうか。

あの不正義の侵略戦争の敗戦後、アメリカの従属下で「奇跡」の成長を遂げ、「エコノミックアニマル」と揶揄されながらも、世界の人たちは一定の信頼と尊敬を寄せてくれていました。

というのも、「豊かな国」ではあったが、アメリカとヨーロッパの旧宗主国のような植民地主義的収奪は表だってしなかったし、何よりも平和主義の憲法を持つ国だから二度と戦争しないとして、信頼と尊敬を得てきたのです。

だがいまはどうでしょうか。GDP(国内総生産)こそかろうじて名目第3位だが、一人あたりのGDPは何と21位に低下し、「先進国」では最下位で、韓国にもすぐ追い抜かれる状況です。その他の指標でも日本の凋落は明らかです。

政治的にも従来からアメリカの言うままに、独自の発信はできず、国際的な存在価値はないに等しい状況でした。昨年「G7」議長国になっても、独自の指導性を発揮できず、信頼も地に落ちたようです。

その最大の要因は、あい続く戦争勃発で危機に面した世界なのに、明確な平和の発信をできていないことではないでしょうか。戦争による唯一の原爆被爆国なのに核兵器禁止国際条約を締結せず、オプザーバー参加もしていません。ウクライナに続くパレスチナの戦争にも終始アメリカの顔を伺って対応し、戦争を即座に止めるための明確な発言と行動を何らしていません。

いま日本の行く末を思うとき、一番大切なことは尊敬・信頼を回復する道を探ることではないでしょうか。そのために何が根本的に必要でしょうか。



長良橋の朝焼け(2023.12.30)

一つは、いまの日本の凋落傾向を直視し、「大国主義」や「成長主義」にしがみつかず、日本に住む多様な人々が日々元気に、明るく生きていける社会をめざすことではないだろうか。「政治小国」でも、「経済二流国」でもよい。めざすは「人権一流国」ではないでしょうか。

もう一つは、何と言っても憲法の平和主義を貫くことでしょう。どのような状況に陥っても、「武力で平和はつukれない」を根本において、対話・外交を重んじ、戦争はしないさせない姿勢を頑なに主張し行動することです。

この点で、「敵基地攻撃能力」保持をめざす大軍拡を行い、殺傷能力をもつ兵器まで輸出するに至っては愚の骨頂でしかないと思われまふ。外国の人たちから再び安心と信頼を寄せてもらい、敬意と尊敬さえ払ってもらえることは、またまた遠のくばかりでしょう。

そうならないように力を少しでも出し合い、明るく輝く明日が見えてくような新年になりますよう、心から願っています。

吉田千秋(主宰)

第186回哲学カフェ例会(2023.12.14)

《激動の一年をふりかえって》

「ほんとうに危機が深まったこの1年。なぜこうなったのか、明日の希望を見出すにはどうすれば良いのか。皆さん真剣に意見交換しました。」

＜問題提起＞ 主宰者：吉田千秋

今年2023年は本当に厳しい激変の年であったと思います。人類の生存の危機に加え、新たな戦争の危機が深まり、明日の展望を描くことがますます難しくなってきたようです。以下、世界との日本をめぐる課題をメモ的に提示し、皆さんの意見を誘い出したいと思います。

1. ウクライナ戦争が長期化し、この出口(停戦)への道を探る課題が困難に。ロシアへの経済制裁は効果なく、EU諸国はエネルギー・食糧問題で「自国優先」、「援助疲れ」に陥った。加えてアメリカの求心力の低下・・・どうしたらよいのか。
2. ハマスの奇襲攻撃に対するイスラエルの報復は、ジェノサイドと呼ぶべき残虐な攻撃になった。国連総会(12日)で「即時停戦を求める決議」を採択。賛成153カ国、反対10カ国、棄権3カ国。いまや非難国は大多数。アメリカ、イスラエルの孤立は鮮明に。どう終結させるのか。
3. 先日開かれた「核兵器禁止条約」締結国会議は、締結国59の国・地域と、オブザーバー35カ国が参加。ドイツ、ベルギー参加。日本欠席。核なき世界の実現に向けてたゆみなき努力を続ける、という宣言採択。日本は核廃絶の明確な態度をなぜだせないのか。
4. 異常気象の乱発による生存の危機を「先進国」は共有しているのか。ドバイで開催された国連の気



候変動会議(COP28)では、30年までに化石燃料からの脱却を、再生可能エネルギーを30年までに3倍にすると合意。だが日本は今年も「化石賞」を提供されるなど全く対応不十分。それでよいのか。

5. アメリカへの従属による「戦争国家」づくりにストップをかけるにはどうすればよいのか。日本国憲法の上に立つ「安保条約」「日米地位協定」に改めて注目をし、平和への発信を独自にしなければ。
6. 旧統一教会との癒着、「政党助成法」「政党交付金」で、金まみれの政治から脱却するはずだったのに・・・。日本政治の劣化、腐敗深化の自浄力がない政権をこのまま続けさせるのか。
7. ジェンダーギャップ、人権無視、貧困格差をなくす方向は、個々には成果が見られるが、世界的には全くダメ。いったいどうすればよいのか。

＜意見交流＞

○異常気象に関連して、私は少し農業をやっているのですが、今年の米の値段の変動についてビックリしています。品質の高さで有名な新潟産米が、猛暑で見た目が悪くなって等級が大幅ダウン。一俵当たり数千円も下落し、農家に大きなダメージになっています。やっぱり国民の食糧は国が保障することが益々重要になってきています。また、農家による高温対策として様々

な試みが進んでいるようです。例えば、田植えの際、株間を広げ風通しと肥料吸収を良くする試みが成果を上げていると言われています。こうした技術面での対策も大事になってきていると思います。

○ウクライナ戦争やイスラエルとハマスの戦争については、今まで日本は特別に何もやってこなかったのだから、その立場を活かして極力介入しない方がい

い。これらの問題は歴史的に米・英などの西側が関わって起きたことで、日本が何かしようとしても、大きな力を持つ米がいる限り、変わらない。いずれ西側は援助疲れなどで疲弊することになる。日本はそれに巻き込まれないことが大切。米は怒るかもしれないけれど、日本は援助なども最小限に留めるべきだ。また、アジアで戦争を起こさないことが重要。米は既に二つの戦争に積極的に関わっているのだから、三つ目をアジアで起こす選択肢はないだろう。

○香港の民主化運動が力で抑えられ、習近平の「台湾は中国に含まれる」みたいな言動によって、アジアにも火種がひろがっている。一旦火が付けば、日本の米軍が動き、自衛隊はワリを食う。また、ロシアのウクライナへの侵攻を考えれば、日本も隣国としてロシアが脅威になる可能性がないわけではない。

○今年は学校でのいじめや職場でも上司によるハラメントなどについて、いくつかの報告書が出され、その中で憲法38条がらみの問題が話題になりました。要は「何人も自己に不利益な供述は強要されない」ということで、突っ込んだ聞き取りなどができないうままに報告されることがあり、第三者から見れば「チョッとこれは」という内容になっているようだ。どう考えたらいいか？

○「自白を強要されない」といった規定は、戦前特高警察などによる被疑者に対する人権無視の取り調べが横行したことに対する反省から生まれたものだ。現憲法には結構細かく刑事訴訟関連の人権保護を定めているが、今日でも留置所が「代用監獄」になっているとか、「冤罪が多い」と言われるように、国際的に見てもまだまだ人権保護が弱い、との批判がいろいろ指摘されています。

○一方で、憲法上での優れた規定が逆の方向に利用され、事実を曖昧にすることに利用されている面も感じます。なかなか難しい問題でしょうが、…。

○ウクライナ戦争についての日本の報道は、米寄りの情報に偏り過ぎている。ロシアの主張にも、ある程度正当性があるのではないかと。米などの情報発信は、武器輸出を目的でやっている、そんな部分もあると思う。また、米が今最もやりたいことは、米中対立の対処や台湾有事への備えで、ここ4～5年日本に武器を買わせ続けてきた。しかし、日本が一番やるべきことは外交による戦争回避の努力だ。今まで民間人でも日中の懸け橋になってきた人もいたが、最



近は表に出なくなった。その辺りも気になる。

○日本政府は「ガザに対する攻撃はやめろ」・「イスラエルは停戦しろ」と国連で言ったのですから、ウクライナ戦争も「とりあえず停戦」という方向を探ることが大事じゃないか。この戦争は米露の代理戦争という見方もあり、まずは「停戦」の実現が何より大切だ。

○戦後日本は、憲法の上に日米安保条約を置き、米の従属国という立場を認めてやってきた。そして2015年に安倍内閣が新安保法制を通して、それまで否定してきた集団的自衛権すら容認する体制となった。その具体化が昨年未の安保三文書、要するに米が戦争を始めれば日本は参戦する、敵基地への先制攻撃もできる。憲法9条では絶対出来ないことを出来るようにしてしまった。国民もあまりその危険性に気付いていない。台湾有事は「中国の国内問題」なのに、米が軍事介入すれば日本も当然それに加わる、そういう政治の流れが出来つつある。恐ろしいことです。自分で判断することをやらないわけですから、言葉を失います。

○敵基地攻撃が可能という話は、無条件と言うことではなく、攻撃される前だけ相手が攻撃してくるということが確実な場合に、という条件が付いています。

○「相手が攻めてくる」ことを事前に間違いなく判断し、それを国民に示すことなんて、今の日本には無理だと思います。

○妄想かも知れませんが、次の米大統領選で「米軍の海外からの撤退」を言っているトランプかケネディーJRが当選すれば、危機はひとまず納まるのでは、と思ったりします。そうなると中国には日本は一人で対峙しなければならなくなり、非常に苦しい立場に追い込まれます。今のウクライナの悲惨な姿を見ると、とても戦争なんか始められないから、中国の

属国になる？それでも死ぬよりは良いじゃないか、とも思います。シニカルな見方でしょうが・・・。

○昨今のイスラエルのガザ攻撃を見ていると、まるでジェノサイドです。第二次大戦においてホロコーストで大変な目にあったユダヤ人が、なぜあんな酷いことをパレスチナ人にするのか、と疑問が湧きました。悲惨な体験が、誰に対しても起こらないようにという方向ではなく、相手から酷い目にあわせようなら早いうちに徹底的に叩いて自分の身を守る、という方向に転換されています。それは先ほどの敵基地攻撃論に繋がる話で、イスラエルだけでなくロシアや欧米そして日本においても問われるべき哲学的な命題です。都立大の宮台教授は、それを解く鍵としてイスラエルのユダヤ人の人口増加率が、経済的に豊かなのに例外的に高い率を維持している、などに関連付けて説明しています。

○イスラエルは確かに住民の犠牲を顧みない激しい攻撃をガザで行っていますが、それをホロコーストと同じレベルにおいて論議するのは問題あると思います。ナチの場合は、強制収容所をつくって計画的にユダヤ人を抹殺するわけで、ガザとは違います。イスラエルが過度な反撃を行うのは、私も間違っていると思いますが、自分たちの国を守る強い決意の表れで、歴史的な背景を持っています。何もしないのにユダヤ人であるというだけで、選別され虐殺される、それを避けるには、もう自分たちの国を造るしかない、ということがイスラエルという国の前提にあるわけです。とはいえ、今の10倍返し？のようなやり過ぎには、国内に反対の声もあるようです。

○論理的にホロコーストと違うことは納得できるのですが、今の戦争は先住民を追い出して自分たちの国を造るシオニズムで、どこがナチズムと構造的に違うのかと・・・。



○目的がパレスチナ人の抹殺ではなかったし、実際イスラエル国内に彼らも住んでいるわけです。ただ建国時から民族間

でもめ事が絶えなかったのは事実だと思います。

○今回の通信に映画紹介として載せました森達也監督の『福田村事件』は、でっち上げの流言飛語から虐殺に至った経緯や背景をえぐり出そうとした作品でした。事件の発端部分では警察が関わり、その背後には政治的手先がおり、国家がバックにいた。あのホロコーストに至ったナチスの人種論も、何の根拠もないのですが、国家の政策の根本に置かれ、酷いことになった。今次のイスラエルも同じだと思います。勿論ユダヤ人とそれを取り巻く民族との相克には長い歴史があり、パレスチナとの関係でも英・米などの絡みもあるわけですが、その一部だけを切り取って理由付けするのは危険です。ともあれ、虐殺には、自ら手先になる者もいるけれど、その手先を生み出したものがあるわけで、特に国家権力を握っている者の権力維持・強化の影響が決定的です。だからそういうことを繰り返さないためには、一人一人が国家に絡みとられないで、一人一人の命を大事にする、そういう思想をしっかり持てるよう、お互いを磨いていかなきゃいけないと思っています。

○来年の台湾の総統選挙でトップが替わることが予想されます。そんな中で習近平が台湾に攻め入った時、米は動かないと思います。もう二つの正面にかかわってうまくいってないわけですから、三つ目に手を出すのは無理で、先ほどのTさんの選択もありかなーと思います。また、日本自身が国を守るという選択もゼロではないという気がしています。

○イスラエルのパレスチナとの戦争では、兵器産業との関りが大きいとの指摘が韓国メディアにあります。最先端のドローン兵器やPCやスマホに取り付くスパイウェア・AIで補正する機関銃などを、パレスチナ人を実験台にして性能を高め、その治験データ？をPRしながら売っているのだそうです。そういう経済面での歪みも無視出来ないのでは。



<意見交流を終えて> 吉田千秋

やはりイスラエルの残虐なガザ攻撃が大変心配ですね。ネタニエフ首相はハマスの奇襲攻撃に対して、全滅することで報復するとしています。でも、多くの人が言っているように、ハマスを殲滅することはできません。例え一時的にできたとしても、「ハマス」のような集団は次々と生まれるでしょう。何せ、今行っているのは「ハマス」の戦争員をやっつけるより、パレスチナの女性や子どもを殺し、虐殺しているのだから。アメリカの9.11に対する「報復」では、アフガニ

スタンでも、イラクでも何ら成果は挙げられず、国土の破壊、国民の大量死、人心の荒廃だけが残されたのです。

このことをしっかり思いだし、戦争は二度を起こさないことを教訓としてのこすべきでしょう。それにしても今年は国内外で大変危機的な状況が続きました。来年は明日の希望が少しでも見えてくるように力を合わせたいものです。

<例会及び「通信」の感想、意見、便りなど>

○<政治改革の前進しかない>

今年を振り返ってみるとやはり激動の1年ではなかったかと思う。「哲学カフェ」主宰の千秋さんのまとめられた問題提起の7項目はどれもこれも重大な要素をはらんでいる。現自民党政権が続く限り、抜本的解決は不可能であろう。そして諸問題は来年に持ち越され、国内的にも国際的にも状況は、悪くなるばかりの予感がして絶望的になる。しかし、「絶望は死に至る病」とか。希望がもてる平和な社会を作るには、政治改革の前進しかない。(MS)

○<「国家に絡めとられる」に思うこと>

虐殺も戦争も「国家に絡めとられた」結果との見方は、充分納得できます。だが、そうなる要因には歴史的社会的な条件が揃うことによって出来上がっていく事柄が多いです。例えば、イスラエルにおける男女を問わず義務とされる徴兵制は、新生の民族国家には不可欠だったかもしれないが、度重なる紛争に勝利した結果、それがナショナリズム過剰を導いているのではないか。そこにパレスチナ側の人権を思い至らない近視眼的感覚が生まれ、今次の「ガザ粉碎」劇では、戦中の日本と同様のマスヒステリーが発生しているように思われます。

戦争に近づく客観的な条件はいろいろですから、細かなそれらの要因を一つ一つ潰していく、そういう民衆の側の取り組みがどこでも大切に思われます。その過程では、憲法9条がまだまだ武器になっていくのではないか。(フィリピン・ウォチャー)

○<敵基地攻撃より、外国との交流を活発に>

日本を守る？ 敵(どこにいるか不明です)が日本の

攻撃の着手とありますが、何で分かるのでしょうか。「基地」の画面を見ている？ 固体式ならば燃料の注入は不要ですが？ そこ(軍事基地、政府中枢、司令部など)を攻撃するまでに日本からどれくらいかかる？ 数々の軍需産業への妄想しか出てきません。

こんなことより諸外国との文化芸術、経済、外交等を対等にすれば、お互いに豊かになるのでは。最近の訪問客をみれば分かるのでは。(野口)

○<「家族」を考え直す>

「家族」とは、時には厄介なもの、時には頼りにもなるもの、いろいろです。しかし国家の都合で「国民」を管理する手段となっている今我々が普通の「家族」と呼んでいるあり方は、みなさんがおっしゃるように考え直す必要がありますね。(井川)

○<パレスチナに平和を! STOP GENOCIDE!>

イスラエルによるガザ地区への無差別攻撃で、通常の戦争犯罪に加え、ジェノサイドと呼ぶべき事態を引き起こしている。

日本政府は、当初、イスラエルの空爆や地上作戦に対し、「現実の状況をしっかり確認できない立場にあるわが国として、法的な判断をする立場にない」としていましたが、12月12日の即時停戦決議には日本政府も賛成。賛成153、全加盟国の8割という圧倒的多数の賛成で採択されました。

アメリカやイスラエルは孤立しています。日本政府に対してイスラエルに完全停戦を求めるように要請し、ガザの人々の人権を守り、人権侵害のないより世界をめざして、声を上げていきましょう。

(Takasi)

○<勇気を持って声を上げた人たちに応えて>

世界を見ると戦争で、暮らしている人々の苦悩苦痛はどれほどのものでしょう。

日本を見ると政治資金パーティ、ダイハツの不正、自衛隊のセクハラと問題が次々と明るみになりました。声を上げれば世間から批判を受けるという図式はお終い。勇気を持って声を上げた人をしっかり受け止め改革して欲しい。

ニーチェの言葉「自分の行為は世界に響いている」この言葉を思い出しました。(子猫)

○<ダイハツの全車種出荷停止事件>

トヨタ自動車の子会社化した時、もしくはOEMでダイハツに生産委託した時に、何故こんな一番大事なことをトヨタは見逃していたのかが不思議です。仮にも、一つ二つはスルーしても全車種ダメなんてことは従業員だけでやってきたとは、とても思えません。見て見ぬ振りが実態ではないのでしょうか。トヨタ幹部も同じ気持ちかもしれません。これは相当まずいですね。

トヨタ自体は当然ですが、提携先全てに対してのトヨタ本体からの派遣により徹底的な検査をしないと世間も許さないのではないのでしょうか。(ryosa)

○<日本は普通の独立国の道を>

まず日本はすでに先進国ではなく米国の属国の衰退国家であり、そして世界のパワーは西側諸国から拡大ブリックスを核とした新興国にシフトしているという現状認識を徹底する事が大事で、その上で普通の独立国として自立していく術を身に付けていくしかないと思います。また短期的には落ち目のアメリカ帝国は

これからもっと過大な要求を日本にしてくることは明らかで、ウクライナみたいに代理戦争をさせることが米国のもっとも望むところでしょう。ウクライナの親米政権の樹立とか、ハマスのテロとかはアメリカ帝国の謀略の匂いが強くなりますので、どんな屈辱的に見えるような事が起きても絶対に戦争はしないと肝に銘じることが重要だと思います。(たなか)

○<今こそ日本国憲法の平和主義を>

私の想いでは1945年を境に世界は平和に代ったと認識していた。今後は大国の「理性」によって平和が守られていくだろうと。しかし生の現実には複雑で

日本国憲法に代表される歴史を積み重ねた平和主義の人たちと、核抑止力論が有効と思う人たち、第一次大戦以前から存在した戦争推進論者、その他の人たちが生きた集合体の総体によって現況の戦争と平和の事態が現れて来ているようだ。

そんな中で私は「平和主義」の立場の中にいる。新しい年に私は一層力を込めて日本国憲法の平和主義を広め、戦争推進論に打ち勝っていきたい。

(アダム・スミス)

○<今年、最も大きな出来事は>

本年10月のこと。埼玉県議会の最大会派である自民党県議団が提出した子どもへの「虐待禁止条例」の一部改正案が、常任委員会では可決されたにもかかわらず県内外民の猛烈な反対とメディアで炎上し、わずか1週間で撤回されるという騒動があった。

改正案は小学3年生以下の子どもを自宅に残したまま保護者が外出するなどの「放置」行為を禁止することなどが盛り込まれ、発見したら通告または通報の義務があることも織り込まれたのだから一大事。

これではまるで相互監視社会になってしまう条例だ。この度の市民感覚とかけ離れた条例改正案があわや成立しそうになった今回の騒動は寸前のところで成立は回避され一安心だが、これを必死で止めた市民のパワーに感動、賛同した。(井口)

○<「日本の行く末を考える」その前に>

時折、下校する小学生の後ろ姿を見ると、この子らの将来が決して明るいものではないことを知る故に涙が込み上げます。戦後、私たち大人は戦争を全面否定する民主的な憲法を抱きながら、平和を享受して生きてきました。しかし、今の日本はどうでしょうか。

アメリカが起こす戦争にいつでも参戦でき、防衛費を倍増させ、先制攻撃もありという軍事大国に変貌しつつあります。「新しい戦前」という言葉がピッタリなじむ社会になりました。こんな日本にしたのは他ならぬ私たち大人であり、その一番重い責を負うのは他ならぬ子どもたちです。戦後78年間、平和を享受してきた大人が「戦争する国」にして子どもらに渡していくことだけは絶対に許さない!

(三戸)

<この一冊> 鈴木エイト著『「山上徹也」とは何者だったのか』(講談社+α新書 2023)

山上徹也とは、2022年7月8日の安部首相暗殺事件の当事者のことである。旧統一教会の問題を長年追及してきたジャーナリストの鈴木エイト氏がこの本で問うのは、安部暗殺は「教団の二次被害者が追い込まれた挙句に起こした事件」だったのか、「すべてを計算づくで起こした社会的事件」だったのか、という疑問である。

とくに、鈴木氏がこの著書で取り組んでいるのは、山上の行為がどのような動機によるものなのか、その点を解明することにある。山上が何を考えていたのか、なぜ暗殺という行為に及んだのか、またなぜ安部だったのか、という疑問を明らかにするために、弁護士を介して山上と手紙のやり取りをし、また山上のツイッターを分析することでその心情に迫ろうとする。その過程で、山上が旧統一教会と政治家の関係を追求する自分のツイッターや著作を読んでいたことを知って、動揺する。自分の言葉が彼の行動の動機づけになったのではないかと懸念が生じたからである。

そうした不安を抱えつつ、それでも真摯に山上の心情に寄り添おうとする著者のまなざしは鋭くかつ温かい。山上の「マグマのような憤り」の正体は？ 安部はメディアを抑え込んだことに高をくくり、教会の大会にビデオ・メッセージを送った。このビデオが事件の分水嶺となったのではないかと鈴木氏は指摘す

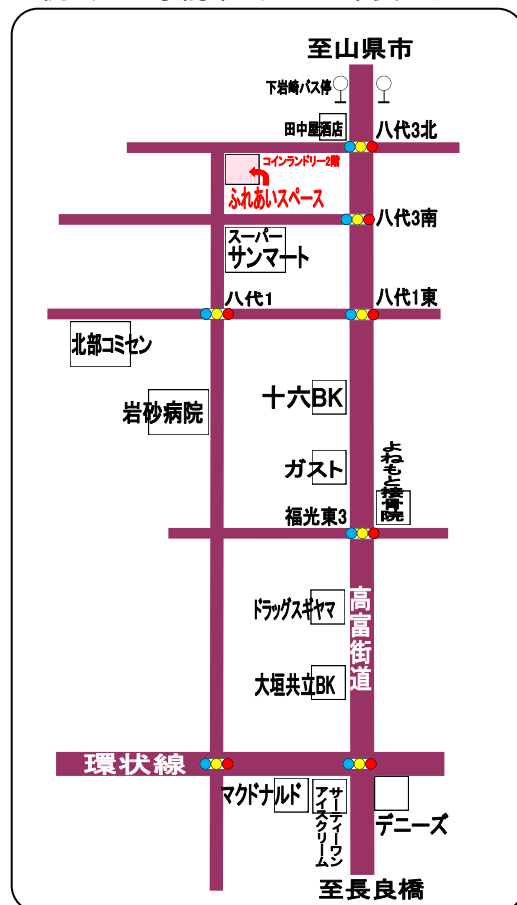
る。つまり、教会による多数の被害者が出ていたにもかかわらず、一国を代表する首相が公然と教会の広告塔となったことへの絶望感が引き金になったのではないかというのである。山上によれば「安部は本来の敵ではない」が、「現実世界に最も影響力のある統一教会シンパ」。だから、「命を賭してすべての統一教会に関わる者の解放者とならん」と。山上は現在もなお接見には応じていないので、事の真相はいまだ不明であるが、事件を理解する上でぜひ読んでおきたい本である。

(Kei さん)



例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



哲学カフェ186回例会

時刻: 2024年1月11日(木) 07:00 PM~

テーマ 「日本の行く末を考える」

以下のURLかミーティングID、パスコードで入室できます。パソコン、スマホ、タブレットのいずれかでどうぞ。

参加 Zoom ミーティング

[https://us02web.zoom.us/j/87559491031?](https://us02web.zoom.us/j/87559491031?pwd=TVU1SWIrTEIySVZHN3hCRnArQmd4QT09)

[pwd=TVU1SWIrTEIySVZHN3hCRnArQmd4QT09](https://us02web.zoom.us/j/87559491031?pwd=TVU1SWIrTEIySVZHN3hCRnArQmd4QT09)

ミーティング ID: 875 5949 1031

パスコードを設定する: 279078

右のQRコードからも参加できます。お手持ちのスマホでQRコードを読み取るとそのまま入場できます



哲学カフェ 第30期(2024年前半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00~9:00

ふれあいスペース⇒コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第187回 1月11日(木)	「日本の行く末を考える」 *2023年は、気候危機に新たな戦争の危機が加わり、世界は混迷の度を深めた。 *激変する世界の中で、弱体化する一步の日本は、どのような道を歩めば良いのか。
第188回 2月14日(木)	「国家予算、ほんとにこれで良いのですか？」 *予算112兆円、税収70兆円弱。その約4分の1は国債費(借金)。健全財政全く無視・いやはや。 *支出では大企業優遇、過去最大の軍事費8兆円弱。国民生活関連軒並み減額・いやはや。
第189回 3月14日(木)	テーマ提案願います。
第190回 4月11日(木)	テーマ提案願います。

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしく願います。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



アラカルト

★何とか、新年にはこの通信をお届けしたいと大みそかに急ピッチで仕上げている。★年末が押し迫った27日、隣の本家にあたる独り暮らしの男性が急死され、バタバタとお見送りを済ませた。まだ70歳を過ぎたばかりの私よりも2歳年上であった。★広い家屋敷と一丁歩ほどの田んぼや山もある。幸い、近所に妹夫婦がいられて今後のことは、その夫婦が残された手続きなどをやっていかれることになるが、早速、相談に見えた。★春からの田んぼをどうしたらいいのだろう、というのである。これまで勤め人だった夫婦にとっては皆目見当がつかない難題である。★私は、子ども、若者支援のNPOの活動に関わっているが、その対象年齢が年々広がり、すでに高齢の人たちも何人も含まれている。亡くなった男性のように一人暮らしはもちろん、頼れる縁者もない人も少なくない。★私は、予定していた年末の約束事をいくつか残したままだった。延ばせるものは年明けに延ばしてもらった。生

活に困窮されている方への支援の物資を受け取りにいく約束は、先方から届けていただいた。正月用品や現金のカンパもいくつかいただけた。この原稿を書き終えたら、それらをお届けに何軒か訪問する。★今月号にも『「家族」とは、時には厄介なもの、時には頼りにもなるもの』というのがあったが、その厄介で頼りになる家族もなく、孤立する人は年々増えている。年末、年始をたった一人で過ごす人も驚くほど多い。★この国は、あまりにも多くの負担を「家族」に押し付けてきた。子育て、介護、看護などを複数抱えておられる人もいる。その上の経済的困窮である。家族間で事件、事故が起きて何ら不思議ではない。★写真は、千秋さんから「おまけ」として届いたものである。エサ台に集まるこの写真のスズメたちのようにお腹いっぱいご飯を食べて、みんなが穏やかに過ごせるのを守るのが政治の最優先の役割であるはずだ。★残念ながら、その期待はできず、人々の生活が回復する見通しはない。新しい年は、ほんの少しでも見通しが持てる年にしたいものである。(中川 健史)

